

学校だより



平成26年10月31日

横浜市立二谷小学校
校長 渡邊 文子

自分で傘がさせる子に

副校長 長田 栄子

9月末のことです。職員室に数人の1年生がやってきました。

「副校長先生、ドングリで作ったので見てください。」
小さな手には、やじろべえやドングリこまが握られています。野毛山動物園の遠足で拾ってきたクヌギやマテバシイの実で作ったそうです。早速、



「このやじろべえ、指に置いても落ちないよ。すごいよ。」

「こまは楊子が短い方がよく回るんだ。」

「僕のは横にぐるぐる回るよ。」

と、得意になってやって見せてくれます。自分の力で作ったことがうれしくて仕方がないようです。「これができるまでには、いろいろ考えたんだろうな。うまくいかずに何回もやり直したのかもしれないな。」目を輝かせて話す子どもたちを見ながら、あれこれと思いを巡らせました。

子どもは、興味や関心のあることや自らもった課題に、本気で夢中になって取り組みます。その過程で、考えたり判断したり表現したりしていきます。この力は思考力、判断力、表現力といわれ学力としてとても重要な力です。そしてこの力を育むには、ゆったりした時間と、失敗しても何度も繰り返し体験できるようなゆとりも必要です。生活や学習の中で、私たちは出来映えや結果だけで評価せず、その過程をしっかりと見守り価値づけていきたいものです。

私が新米の教師だった頃、「自分で傘がさせる子を育てなさい。」と大先輩に教えられたことが思い出されます。これは、「指示されて動く子ではなく、自分で考え判断し、それを行動に移せる子を育てる。」という意味です。保護者の皆様や地域の皆様のご支援、ご協力をいただき、これからも「自分で傘がさせる二谷小の子」を育てていきたいと思っております。

今年も11月28日金曜日に、全市に向けて国語科研究発表会を行います。保護者の皆様、地域の皆様のご参観をお待ちしております。ぜひ、児童の意欲的な学習活動の様子をご覧いただきたいと思っております。